

中高 記念



在学生代表・多くの同窓生・PTA・来賓・職員が参列し、盛大に行われた記念式典

◇◇◇創立88周年記念事業成功裡に終える◇◇◇

台風接近の報道に関係者のみなさんは気をもみながら、翌日の式典、祝賀会の準備に取りかかった。

台風一過、10月17日(土)は米寿の祝いにふさわしく晴天に恵まれ、ほっとした表情である。

午前は生徒対象の創立記念講演を同窓の高江洲義英氏(18期・いづみ病院長)を講師に迎えて、母校の体育館で行われた。

引き続き正午から沖縄県立第二中学校、那覇高等学校の創立88周年の記念式典が、那覇市助役(市長代理)、県教育長を初め、来賓、生徒、同窓生、PTA、先生方が出席して体育館満席の中盛大に挙行された。

二中・那覇高校の校歌齊唱で式典の幕はおろされ、島袋真栄校長、宇良宗真期成会

会長の式辞があり、つづいて、那覇市長(玉城正一助役代読)、安室肇県教育長、倉岡健三PTA会長、花城由樹夫生徒会長が挨拶した。

平成7年12月に期成会を結成し、その下部に総務、財務、記念誌、同窓会館建設検討の4委員会を設け、88周年事業を推進したことの報告が源河徳博期成会事務局長からあった。

その後、感謝状が歴代校長の古城源徳、嘉手川繁一、源河徳博、岸本定治の4氏へ、歴代PTA会長の神谷尚、仲宗根正、糸村幸子、久手堅武司の4氏へ、城岳同窓会の前会長久場政彦氏へそれぞれ贈られた。

期成会から記念目録が、同窓会から二中の校旗が校長へそれぞれ贈呈された。午後1時に式典は終了し、その後祝賀会が催された。



祝賀会で高々と祝杯をあげる
来賓・役員・会員諸氏

◇同窓会国外留学制度を設ける◇

創立88周年を記念して、平成10年度より母校那覇高校生の国外留学を支援するため奨学制度を設けた。第一号として、宮城夏美さんが選ばれた。

「私のように運の良い人はいないと思います。城岳同窓会のおかげで留学できることになりました。せっかくの手に入れたチャンスを無駄にしないよう、一日一日を大切にし、身も心も大きくなって帰ってきたいです。」

(3年8組 宮城夏美)



宇良宗真同窓会会長より奨学資金の贈呈

◇◇◇城 岳◇◇◇ =写真が語る88年=



写真が語る戦前、戦後の教育

金城弘征(二中35期)

現代沖縄の歴史資料にまた一つ貴重な写真集が加わった。「城岳 写真が語る88年」と題するA4版、275ページの労作である。二中、那覇高校創立88周年記念事業期成会が編集した。

収集された写真がざっと1万3千点、編集に要した期間が2年余りということからしても、本書の内容の充実ぶりがうかがえる。

この写真集の最大の特色は、単に学校の歴史をたどるだけでなく、明治、大正、昭和、平成を貫く88年間の沖縄社会の背景写真を豊富に収録している点であろう。その意味で本書は、部外者にとっても一見の価値ある歴史資料となっている。

明治43年(1910)年沖縄県立中学校の分校

として首里城内で産声を上げた県立二中。そこに集いし若人の意氣軒高ぶりと比べて北殿校舎の落魄の姿が目に痛ましい。一方で赤木の古木に覆われたハンタン山の静かなたたずまいや、しっとりと落ち着いた瑞泉門の石畳などに心の安らぎを与えられる。

当時、首里城内には二中のほかに女子芸学校や工業徒弟学校などが雑居していたらしく、数枚の写真を通して沖縄の文教黎明期の息吹が伝わってくるような気がする。

写真はその後、二中が嘉手納時代を経て最終的に現在地の城岳のふもとに落ち着くまでの経過を追っている。大正から昭和初期にかけての平和な時代の写真は、さすがに心のオアシスだ。

馬車や人力車が道を行き交い、街を歩く人々はカラヒサー（はだし）が多いが、ゆったりした時の流れと人の心の穏やかさが見て取れる。

そして歴史は昭和19（1944）年の10・10空襲から悲惨をきわめた沖縄戦へと急転回していく。

「城岳も戦場だった」と題する一枚の写真がわたしの心をとらえた。二中校庭の西側にあったヤマトウンチューバカ（大和人墓）の小高い丘の上で、米兵が墓石の間を腹ばいになって前進している写真である。

丘一面を覆っていた美しい琉球松の木立が消え失せて、丸裸にされた二、三本無惨に立っている。その向こうにどんぶりを伏

せたような城岳。どうやらそこに日本兵が立てこもって抵抗しているらしい。よく見知った場所だけに地上戦の臨場感がひたひたと肌に迫る思いがした。

天妃小学校の残がい校舎からスタートした戦後那覇高校の歩みも、もうすでに半世紀を越えた。そしていまや戦争の爪痕は、城岳の頂上に建つ二中健児の塔の196人の犠牲者の墓碑銘を残すだけとなつた。

一つの学校の生成発展の足跡をタテ糸に、そして歴史の激流に揉まれ続けるウチナー社会の素顔をヨコ糸にして編み出されたこの写真集は、多くのことをわたしたちに語ってくれる。

（1999.5.25 沖縄タイムスより転載）



青春の思い出が凝縮

比 嘉 美智子（那覇高7期）

沖縄県立第二中学校・那覇高校創立88周年記念事業の一環として、このほど「城岳一写真が語る88年」が出版された。3万6千人余の同窓生の、まさに88年分の青春の思い出が凝縮された素晴らしいアルバムである。

校舎や生徒たちの姿を通して、時代の移り変わりや教育活動とその社会的背景が、手に取るように理解できる。セピア色のはるかかなたから立ち上がってくる校舎や校庭は、遠い昔のままの姿であり、また終戦直後の校舎建築作業の光景も懐かしい。次第に整備されていく学び舎と共に、暗く貧しい時代から現在の豊かな時代への変遷をたどり、城岳のふもとの校舎を俯瞰し、その歴史を展望する記念誌となっている。

あらゆるジャンルを取り込んだクラブ活動の写真は圧巻である。芸術・文化やスポーツの世界、修学旅行の思い出、授業風景や体育祭と、1万3千余点も集められた写真を整理・分類し、懇切丁寧な説明がなされている。

そして、色彩鮮やかな88周年記念式典や

祝賀会、芸能フェスティバルの写真へと続いている。

教育の根幹をなす人材育成の模様も、二中時代の「進学塾」から進学名門校としての那覇高校へと、伝統や校風が受け継がれていく様子が、写真や解説を通して描かれている。

そして、那覇市の戦前・戦後の移り変わり沖縄県の全体像も見えてくる。10・10空襲や戦場と化した那覇市、戦後の二中健児の塔。15万人余の県民を総動員してわが那覇高校の校庭で開催された「四原則貫徹島ぐるみ闘争」の大集会。復帰運動やその道のり、復帰記念の写真と共に、米軍基地や軍事演習の模様も収められている。「城岳」はこうした沖縄の重要な歴史的瞬間をすべて網羅した、88年間にわたる沖縄県のアルバムとも言える写真集である。

この分厚い一冊を手にするだれもが、青春時代のさわやかな思い出をたぐり寄せ、沖縄という島で育った感慨をかみしめることであろう。A4版、275ページ。

（1999.6.2 琉球新報より転載）

◇◇◇◇◇城岳同窓会定期総会・懇親会◇◇◇◇◇

－写真集「城岳」出版祝賀会を兼ねた懇親会盛り上がる－

平成11年度定期総会が5月20日午後5時30分より、東急ホテル1階ゴールデンホールにおいて開催され、引き続き写真集「城岳」の出版祝賀会を兼ねた懇親会が盛大に行われた。

総会は、宇良宗真会長の挨拶の後、報告事項や審議事項について説明があり、全会一致で承認された。



1. 議 事

- (1) 平成10年度事業報告
- (2) 平成10年度決算報告及び監査報告
- (3) 平成11年度事業計画
 - a 総会・懇親会
 - b 二中健児の塔 慽靈祭
 - c 平成11年度国外留学奨学金の授与（1年間80万円）
 - d 創立記念文化講演会
 - e 母校の教育奨励事業

(4) 平成11年度予算

(5) 役員改選

(任期：平成14年3月31日)

- | | | |
|-----|-------|---------|
| 会 長 | 宇良 宗真 | (二中33期) |
| 副会長 | 金城 弘征 | (二中35期) |
| " | 翁長 助裕 | (那高7期) |
| " | 高良ミチ子 | (那高12期) |
| " | 島袋 真栄 | (校 長) |
| 監 事 | 屋比久嘉光 | (二中34期) |
| " | 金城 克則 | (那高3期) |
| " | 福 直治 | (那高37期) |

2. 報告事項

二中・那覇高創立88周年記念事業の報告
※総務、財務、記念誌、同窓会館建設
検討の4委員会の活動について



◇◇◇◇◇◇◇◇◇54回目の慰靈祭◇◇◇◇◇◇◇◇◇

戦後54回目の夏を迎え、今年も6月23日がやってきた。梅雨明けの澄み切った青空のもと、多くの遺族、同窓生、職員、生徒が集い、「二中健児の塔慰靈祭」が行われた。

「沖縄で生をうけ生活する者にとって6月23日はとても大切で特別な日。今の平和な生活があるのは、多くの犠牲があったからということを忘れてはならない」

(生徒会長佐和田宗之君)



会員寄稿



人間ドック

八木政秀(那覇高7期)

1989年11月18日にPL病院で、行われた、人間ドックの定期検診の結果は、尿検査に微小の血液反応が認められ、更に超音波検査で、右の腎臓に腫瘍の疑いがあり、良性悪性の鑑別が必要と、専門医の診察を受けるため、東京共済病院を紹介してもらった。同病院でのCTなど精密検査結果は、摘出手術が最善の治療法であるとの診断でした。

勿論、自覚症状など全くなく、過去にカゼ以外の病に無縁の私には、大変ショックでした。師走、12月19日入院、22日、4時間に及ぶ手術は無事終了、摘出された臓器の組織検査の結果は、悪性だったとのことでした。所謂、癌の初期症状だったのです。

幸いにも、より早い発見と、より早い治療のお蔭で、今まで恙なく過ごさせてもらえて、幸運だったと思っております。

手術後、間もなく9年目を迎えるますが、共済病院での年数回の定期検査と、東大医科研附属病院から、東邦医大附属病院での、シンチグラフィー検査は今でも続けております。

病気した人が快復して、声高らかに叫ぶのは、健康こそ最高の幸福だということでしょうが、その幸福感を大抵の人は、平素はもっていないようです。病気知らずの健康な生活が続くと、健康であることの素晴らしさと、それへの感謝の心を失わせてしまいがちと思います。人間は病気して初めて健康のありがたみを感じることができます、病気を知らない人にはその真価がわかりません。

忙しく学ぶ若い人、がむしゃらに働く中年の人、老いつつあることすら感じな

い壮年の人にも、病気は発生するものです。

そこで、大切な事は、自身が自分を守るしかない健康管理であります。その身近な手段として人間ドックが、最も良い方法だと思います。

私の体験を顧みて、いまここで訴えたることは、より多くの人が、定期健診を行う習慣を身につけてもらいたいことであります。

フランスのカントといわれる、メーン・ビランは次の言葉を残しております。「健康は我々を我々の事物に連れ行き、病気は我々を我々の内に連れ戻す。」つまり私たち人間は健康な時には哲学者であってさえも、生命とは何であるか、人生とは何であるかということは、なかなかむづかしい。しかし病む時に、私たち人間は内省することによって、人生とは何であるかということを、哲学者でなくとも考えるようになる。だから病気は私たちを内側の我にもっていくのだと語っています。

私たちは自ら病むことによって病む他人をも理解ができる感性を与えられます。そう考えればこの病気体験も、私には決して無駄なものと考えておりません。

今秋、PL病院での人間ドックは11回目になりますが、それ以前の他院から通算すれば20数回の受診になります。

健康なカラダを維持するための人間ドック、カラダの調子にかかわらず、ライフスケジュールとして考え、定期健診されることをお勧めいたします。

八木歯科 渋谷区円山町10-17
ファーストビル松本1F

◇那覇高校ニュース◇

平成10年度、第52回卒業式は、平成11年3月1日に挙行された。普通科507名、衛生看護科36名、計543名が卒業して同窓生の仲間入りをした。今年も3月4日に国際交流プログラムとして、ワシントン州シアトル、ネイサンヘイル高校へ10名派遣した。今回で24回目を迎える、授業、並びに諸活動への参加をとおして、語学力の向上はもちろんのこと、異文化理解、国際親善と大きな成果を得ることができた。また、今年度特筆すべきことは、創立88周年を記念し、城岳同窓会から国外留学生派遣のための資金援助を行うことになり、本校3年生、宮城夏美さんがアメリカへ1年間留学することに決定した。

今年の進路決定状況は、国公立大学58名、私立大学、短大202名、専門学校96名、文部省所管外大学校12名、就職19名と進路決定率70.7%であった。



祝 30,000号（卒業証書 第30,000号）
3年9組 武富瑠香さん

高校総体は5月29日から6月2日までの日程で開催された。本校は17種目の競技に269名の選手が参加した。団体戦では、剣道男子準優勝、剣道女子準優勝、空手男子組手3位、空手女子組手3位、テニス男子3位、水泳男子総合2位、水泳女子総合2位と健闘した。個人戦では、剣道男子優勝、水泳男子100mフリー2位、50mフリー3位、200mバタフライ3位、女子100mフリー1位、女子400m個人メドレー3位と優秀な成績を収めた。文化系では、6月5日に開催された沖縄県高文連主催スケッチ大会において、優秀賞1名、奨励賞5名に輝いた。九州地区書道席上揮毫大会において、奨励賞を獲得した。

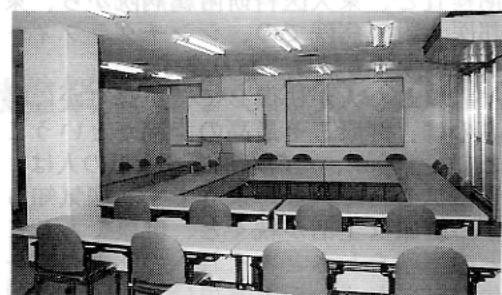
◇関東城岳同窓会だより◇

関東城岳同窓会（上江洌太郎会長）は毎年1回都内で総会を行っている。最近は、霞が関ビルの33階での開催が定着しつつあるが、ここ数年の出席者は最高180人前後であり、尚一層の参加を期待している。今年は、11月13日（土）午後1時より同所での開催を予定している。校長先生や本部役員の臨席を頂いており益々盛り上がった雰囲気を皆様に楽しんで頂いている。現在関東城岳同窓会の会員名簿では、1,000人程度を把握しているが、今後は本部事務局とも連絡を密にして、新規会員を増やすよう努力していく。総会の内容は和気藹々とした自分たちの手作りで、余興や抽選会の景品も会員有志で手配している。まだ一度も出席されたことのないみなさんの参加を期待しています。

お問い合わせは、事務局 03-3399-7615
(福永様方)までご連絡下さい。

事務局より

城岳同窓会館をご利用下さい。
会館2階は旧制第二中学校、那覇高等学校の歴史を後世に語り継ぐ資料展示室があり、3階は会員の親睦の場所として、会議、展示、クラス会などに利用しています。収容人員は50名で、団体使用料は同窓会員1時間あたり700円です。



城岳同窓会会報

編集発行 城岳同窓会

〒900-0014 沖縄県那覇市松尾1-21-53
電話・FAX 098-867-2525